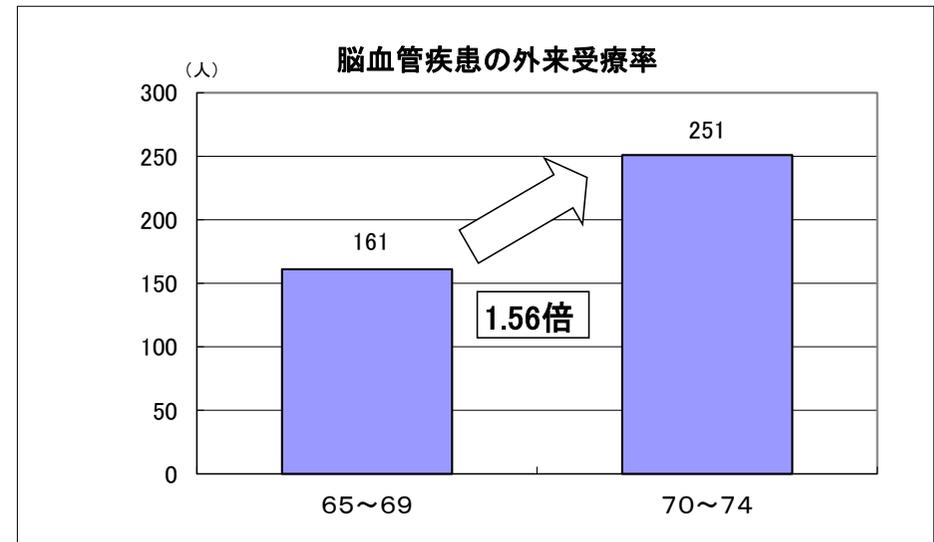
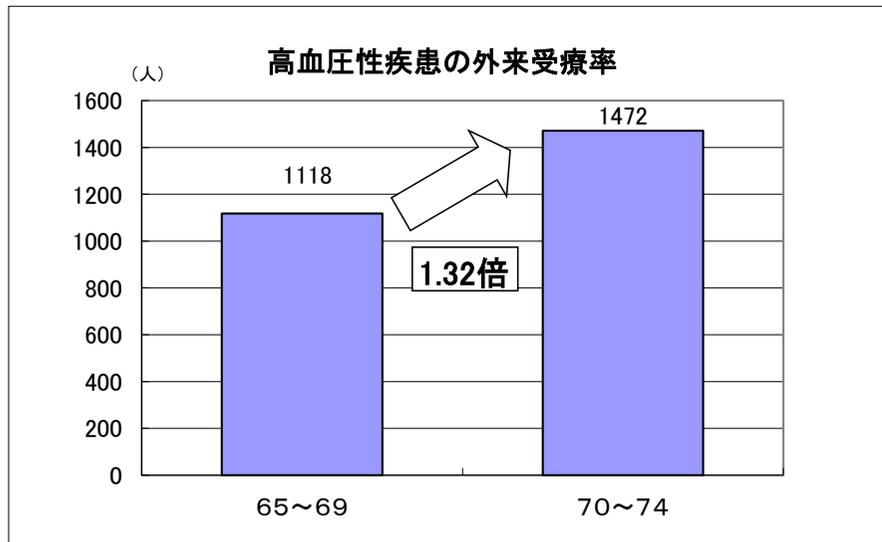
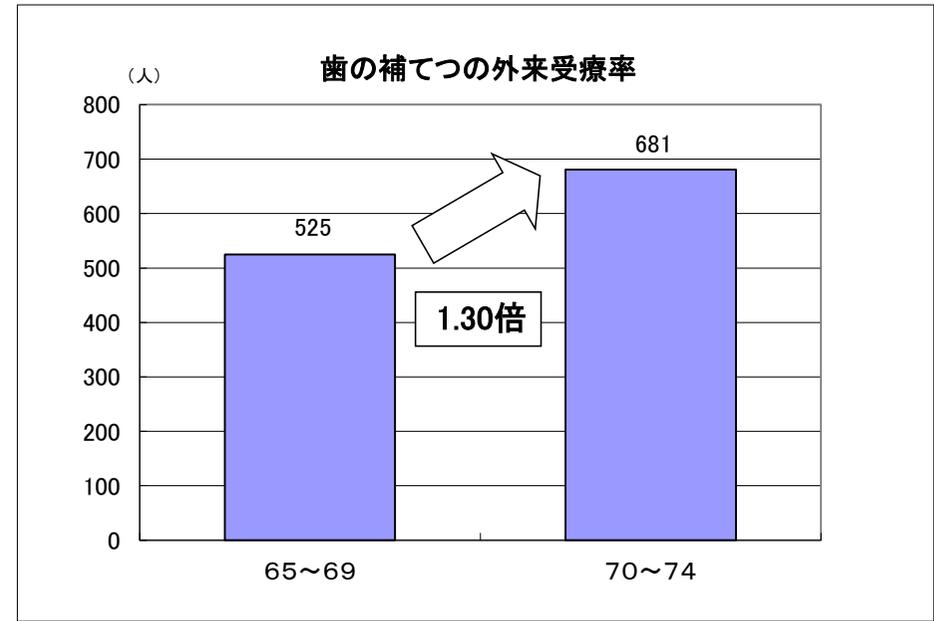
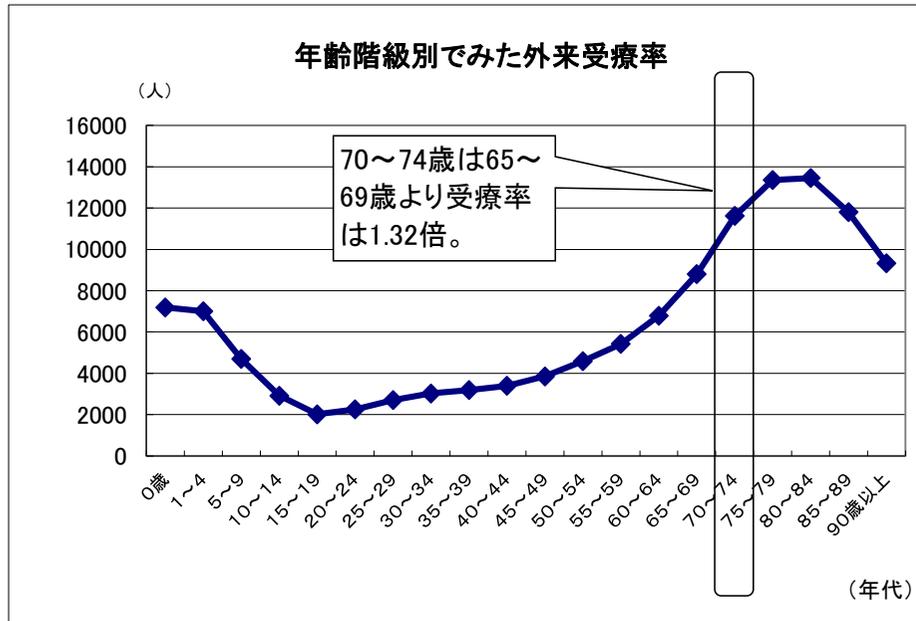


年齢階級別でみた外来受療率と傷病別受療率の比較



※受療率とは

推計患者数(調査日当日に病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数)を人口10万対であらわした数。受療率(人口10万対) = 推計患者数 / 推計人口 × 100000

事例① 60代女性、国保

アルツハイマー型認知症で夫と二人暮らし、デイケアに毎日通っている。残存している歯22本のうち、12本が重度う蝕で歯の根っこのみ残っている状態。自身で歯磨きできず、歯肉の炎症も見られる。

経済上の理由から治療できず、このような状態になった。あと1年経てば前期高齢者で窓口負担が1割となるため、それを待って治療を開始する予定。現在は週1回の口腔ケアのみをおこなっている。



事例② 70代女性、国保

内縁の夫の年金が月20万円あるが、知り合いの借金の肩代わりに年金の半分を持っていかれている。本人は無年金。生活はギリギリで、歯科での窓口負担は年金が入った時にまとめて支払うような状況。3年前にも治療途中で中断している。

残存歯19本のうち17本がう蝕歯。しかも重度で歯周病も重度に進行している。

